

## 六、故中村静雄之像碑文

中村静雄君八明治三十八年屋嶋山麓ニ生ル。資性英邁、少クシテ政治ニ志ヲ寄せ、三木武吉先生ノヨキ理解者真ノ分身トシテ終始形影相伴イ、ソノ機略ト智謀ヲ縦横ニ傾ケ、自ラノ識見徳望ト相俟ツテ、大イニ為ストコロアリ、県竝ビニ中央政界ニ重キヲナス。又君八東讃塩業組合理事長、屋島塩業組合理事長、日本化学塩業株式会社社長、香川県塩業組合連合会会長、更ニ八塩業組合中央会ノ有力ナル理事トシテ業界ノ信任ヲ一身ニアツメ、事実上ソノ最高指導者トナル。

昭和三十四年塩業整備臨時措置法成立スルヤ、合理化近代化ニヨル業界ノ再建ヲ首唱シ、自ラモ率先シテソノ実践ニ日夜腐心ス。即チ君八塩業近代化ノ活路ヲ新技術ノ導入ニ求め、昭和三十五年牟礼塩業組合、屋島塩業組合、高松塩業組合、生島塩業組合、三和塩業組合等ト相謀リ旭硝子株式会社ト提携ノ下ニ、イオン交換膜製塩方式ト在来ノ塩田方式トノ組合セニヨル日本化学塩業株式会社ヲ創立ス。カクテ君ノ洞察力ト勇断八業界ニ不滅ノ導標ヲ打立テ、業界近代化ノ先達トナル。

近年、産業界ハ悉ク技術革新ノ波浪ニ洗ワレ、塩業界ノ前途ニモ、空前ノ困難ガ予想サレ、君ノ指導力ト実行力ニ期待スル事大ナルモノガアル時、宿痾重ナリテ復起ツヲ得ズ、惜シクモ昭和四十二年二月二十六日長逝ス。噫々。

塩業組合中央会会長 大平正芳撰書

(昭、四三・一〇・一五)